

創刊にあたって

金沢城は、古くは中世末期の「金沢御堂」の建立にはじまり、近世には加賀藩政の拠点として、明治以降は旧陸軍の施設が置かれ、そして戦後は金沢大学のキャンパスとなるなど、歴史的な変遷をたどりながらも、北陸の政治・経済・文化の中心として、また都市金沢の核として、時代を超えて生き続けてきた、本県のかげがえのない文化遺産であります。

しかしながら金沢城については、石垣や堀等の遺構が良く保存され、絵図・文献等資料がきわめて多く残されているにもかかわらず、これまで総合的な調査研究が行われていないために、その実態が十分に解明されていないのが実情であります。

このようなことから、金沢城を正しく理解し、県民と一体となった保存・活用を図るうえから、県が主体となって、総合的な調査を行うこととし、平成13年7月教育委員会文化財課に「金沢城研究調査室」を設置しました。

平成13年度には、2期20年の調査研究事業計画を策定し、本年度からは、金沢城調査研究委員会、同・調査研究専門委員会を設置し、絵図・文献、埋蔵文化財、建造物、伝統技術（石垣）の各分野にわたる総合的な調査研究を本格的に開始しました。また、金沢城の基礎的データの整理・収集を進めるための、データベースシステムの開発も行いました。

本書は、本年度の調査研究成果に加え、金沢城調査研究委員会、同・調査研究専門委員会委員の皆様が日頃より進めておられた金沢城研究に関する研究成果も掲載できました。金沢城については、県内外より高い関心が寄せられており、本書がその要望に多少でも応えられればと、考えているところであります。

最後になりましたが、ご多忙の中、玉稿をいただきました委員の皆様に感謝申し上げますとともに、本書が金沢城の歴史的・文化的意義を明らかにし、広く県民の皆様と一体となった金沢城の保存と活用を考えるための一助として、また近世城郭史研究に資するものとしてご活用いただければ幸いに存じます。

平成15年3月

石川県教育委員会

教育長 山 岸 勇